



年末所感

間もなく平成30年も終わろうとしているが、それはまた「平成」の終わりでもある。最近よく「平成最後の～」というフレーズを耳にするが、君たちも「平成最後の卒業生」ということになる。まあ、それなりにプレミアムといえようか。

ついでに言うと、今日は私の誕生日で、無事に還暦を迎えて28歳となった(笑)。国語科の先生方が昼休みにお祝いをしてくれて、●●くんと●●さんと●●さんからはプレゼントもいただいた。本当にどうもありがとう。息子からもメールが届き、「無理せずにがんばって」とあり、いったい私はA「無理せずに」なのか、B「がんばって」なのか、いったいどちらの立場をとればイイのだろうかと思んだところである(笑)。

しかし、こうしていよいよ28歳になったわけだが、(…28歳は大袈裟だとしても)どうもその実感がなくて困る。一方で、着実に体力や視力は衰えているし、髪の本数と弾力性も着実に減少している。体が硬くなって足の爪を切るのにも苦勞する始末である。「神は細部に宿る」というが、「年齢は細部から姿をあらわす」といったところか。

*

トインビーという歴史家が『歴史の研究』という名著を残しているが、その中で次のように述べている。

歴史を繙いてみると、そこには一時は大変繁栄を極めた文明国家が、やがてどういふわけか衰退し滅んでゆく例が数多く見受けられる。(中略)どの文明も滅んだ基本的な原因は、社会の内部からの崩壊現象であり、(中略)歴史家はしばしば外敵が侵入

した結果、滅んでしまったかのように書いているが、実は外敵が侵入する以前にそれを持ちこたえられないほどにまで、国の内部が自壊作用を示している。

鋭い見解である。確かに、世界史などを学習すると、「■■族の進出」とか「▲▲による征服」といった事項が出てきて、それがある国家の滅亡と関連づけられて述べられていることがあるが、そもそも「進出」や「征服」に耐えられない国内体制になっていたからこそ、その結果がもたらされたのであろう。

では、今の日本はどうなんだろう。お隣の国が海洋進出を企てているようだが…。

国や組織が滅びていく構図は、指導者の保身と組織の旧態依然とした考え方、またその中での内部の自壊作用である、というトインビーの指摘は、今の日本にこそ、あてはまるというべきか。だからこそ、これからの世代、つまり君たちの世代に対する期待は大きいともいえるのかも知れない。

*

さて、新しい元号は何になるのだろうか。元号なんて…と思う人がいるかも知れない。でも、君たちは「日比谷平成31年卒」ということになるし、いつかその呼び方に納得する日が来るに違いない。その時、君たちの「日比谷の日々」は、その「平成」という元号とともに思い出されることになるのである。

私が生まれたのは昭和33年。昭和20年に終戦を迎えたのだから、戦後13年目ということになる。そう考えると、この平成がいかにかに平和であったかということが分かる。この平和を守ってゆくのも、君たちの使命である。